



糸半プロジェクトとは

平成二十七年、燕市の「羽ばたけつばくろ応援事業」の採択を受け、生徒会本部が中心となり、「糸半プロジェクト」を立ち上げました。

「糸半プロジェクト」は、お世話になっていいる地域の方々への恩返しと、中学生にできることを考え行動し、小池中の良さを自分たちの姿で表現するという地域への発信とボランティア精神の向上を目的としたものです。

昨年度に引き続き感染禍での活動となりました。できないことを嘆くのではなく、限られた条件の中で、中学生としてできることを構想し、地域の方々と相談しながら取り組みました。私たちの取組を糸半新聞にまとめ、地域に発信し、連携をより一層進めていきます。



※糸半プロジェクトの名前には、小池中生が縦糸、地域の方々が横糸となって、お互いの力を出し合って、絆を深めたいという願いが込められています。



The meaning of ITOHAN PROJECT?

CONTENTS 目次

糸半プロジェクトとは	2 ページ
今年度のテーマと2つの視点	3 ページ
・地域の魅力発見 糸半朝会	4 ページ
・地元企業とのコラボ企画でものづくり	5 ページ
・防災について	
防災マップのHPへの掲載	6 ページ
災害場面を想定した道徳 3年生「さすけなぶる」	7 ページ
全校道徳「防災クロスロード」	8 ページ
地域合同防災訓練	9 ページ
各学年での防災学習	10 ページ
・糸半講演会	11 ページ
認知症サポーター養成講座、地域貢献活動紹介	12 ページ

令和3年度 企画活動テーマ

～感染禍の中で、今、私たちができること～

これまで行ってきた地域貢献活動に加えて、次の2つの視点で新たな活動を創造しました。



地域交流

羽ばたけつばくろ応援事業2



地域発信

伝統の技と知恵が新たな業を生み出しているこの燕だからこそできる活動に挑戦しました。私たちのアイデアを地域の企業に提案し、地域に役立つものを作成します。

また、昨年度の先輩たちから受け継いだ「防災」を地域との共通のテーマとして取り組みました。私たちが作成した防災マップを学校ホームページへ掲載しました。

地域合同防災訓練では、昨年度から行っている安否確認を役員の方と一緒に行いました。また、災害時に中学生として何ができるかを道徳や防災学習で考えました。

誰もが住みやすいまちづくりのために、今年度より新たに1年生が認知症サポーター養成講座を受講しました。

私たちの地域貢献活動

- 鉢植えやクリスマスリースのプレゼント
- 地域クリーン作戦など



令和3年度 企画活動テーマ

～感染禍の中で、今、私たちができること～

地域の魅力発見 糸半朝会



◆六月二十九日(火)

講師：株式会社 マグネット

ディレクター 福田 恭子様

演題：「『働くって楽しい!』を

実現する生き方」

「地域交流」と「地域発信」に関連して、燕のものづくりや面白い仕事、地域で魅力的に活躍されている方々などを紹介していただきました。私たちが地域の魅力を知る良い機会となりました。

感想

●自分の住んでいる地域に工場がたくさんあることや、テレビで見たマジックメタルを作っている所があると知って、改めて燕はすごいと思いました。自分の仕事に誇りを持って、仕事を楽しんでいることとはすばらしいと思いました。私も将来、仕事が楽しいといえるような大人になりたいなと思いました。そして、日々輝けるような大人になるために自分のやりたいことを大切にしたいって、それに向かって今できることを精一杯やっていたいなと思いました。

： 地元企業とのコラボ企画でものづくり ：

地域にどのようなものがあつたら地域貢献につながるか。
四つの視点から全校生徒でアイデアを出し合いました。

- ① 設置場所は
- ② 品物は
- ③ どのような人のためか
- ④ 期待される効果は



燕の魅力を発信できるよ
うなベンチを制作したい！
学区内の企業である株式会社アベキン様より御協力いただきました。

社長室長の佐藤様と生徒会本部で再度ターゲットをしぼり、やるべきことを整理して、企画をスタートさせました。



現在、プロジェクト進行中

地域との共通テーマ「防災」

防災マップの作成



まちづくり協議会の皆さんからも
点検していただきました



校内に掲示



ホームページ掲載
地図上に40カ所を
マーク

町名をクリックすると
それぞれの危険箇所の
画像と説明が表示されます



危険箇所の画像と説明

昨年度、先輩たちと一緒に作成した防災マップが完成し、学校のホームページに掲載しました。地震発生時に危険と考えられる場所を町内ごとに調べました。

ホームページ上の防災
マップに
アクセス
できます



昨年度の活動もホーム
ページで
紹介して
います



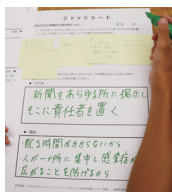
災害場面を想定した道徳 3年生

協力：NPO法人ふるさと未来創造堂

災害場面を想定した道徳の授業では、地域合同防災訓練などの体験を生かして、実際に起きた事例への対処を話し合いました。「人としてどうあるべきか」「自分はどう行動すべきか」を考え、議論し、みんなで納得解や新たな考えを導き出す活動を行いました。

三年生は、東日本大震災による避難所（ビッグパレットふくしま）で実際に起きた事例にどう対処するかを考えました。個の命と人権を守ることをルールとして議論しました。

さすけなぶる



一人一人の考えを付箋に書いて発表し、班としての意見をまとめます



各班の意見を全体で交流

感想

● 目の前のことだけを考えずに、その先のことまで考えてから行動しなくてはいけないと思った。

● みんなが納得する考えを導くのは大変だと感じた。想像力を働かせたり、大きな声ばかりではなく、小さな声も聞いたりするなど、人権を守りながら問題を解決するのはとても難しいと思った。

災害場面を想定した道徳 全校道徳

協力：NPO法人ふるさと未来創造堂

防災クロスロード

今年の防災クロスロードは、全校で行いました。災害時の様々な場面とそのときの立場を想定した二者択一の選択から、自分はどう行動するかを考え、全校で話し合いました。各班一台のクロームブックを使用して、それぞれの班の意見をステージ上のスクリーンに集約しながら、その判断と理由について共有し、考えを深めました。



YES or NO カードで自分の意を表示

その後、班で話し合い、意見をまとめてクロームブックで送信



各班の判断と理由を発表し合い、共有しました

こんな場面を考えました
その時の立場【子どもの親】

大地震で我が子が学校で頭をケガしたようだ。急いで学校に向かう途中、人が生き埋めになっているのを発見した。周りに人はいない。携帯はつながらない。自分の子も気になる。まずは目の前の人を助ける？

YES ・ **NO**



感想

●「答えは探すのではなく、見いだすもの」という言葉がとても心に残った。

●短時間で判断しなければいけないので、自分の考える優先順位も大切だけど、それに従っていないのか、すごく悩んだ。

●他の学年や班の違う意見を聞けて、納得したり、新しい発見や考えを深めたりできてよかった。

●地震発生時の問題についてより深く考えることができた。自分とは違う意見をたくさん知ることができてよかった。

●いろいろな答えが出ることが分かった。たくさん考えたからみんなが納得する答えを見つけていくことが大事だと分かった。

10/2(土) 地域合同防災訓練

平成28年スタート 6年目の取組



いっとき避難所での受付補助



体育館での防災グッズの設営



役員の方と一緒に安否確認

感想

●勇気を出して地域の人と話してみると達成感があった。協力することの大切さや交流することでお分かりになることもあった。

今年度もいっとき避難所までの避難訓練となりましたが、中学生も町内ごとの役割に従い、地域の一人として活躍しています。

- 小池中学校では3年間を通して、災害時に必要とされる様々な資質や能力を身に付けるために防災学習に取り組んでいます。



感想

- 一人では難しくても、みんなが協力すればできることがあると分かった。
- 津波を想定して車いすで段差を越えようとしたら思った以上に焦った。災害時はそんな人を自分から助けたい。

『一年生《災害弱者の避難支援》』
車いすを利用しての方を支援できるように車いすを体験しました。段差や柔らかい場所など実際に体験しました。また、毛布を利用した担架での搬送にも挑戦しました。



感想

- 心臓マッサージの大切さが分かった。
- もしものときは、自分には何ができるのかを考えたいと思った。
- 人を助けなければいけないと使命感を覚えた。

『二年生《救急法講習》』
燕市教育委員会社会教育課の岡部様から止血法やAEDの使い方、心肺蘇生などについて詳しく教えていただきました。

三年生

『避難所運営ゲームHUG』

災害発生時の避難所運営について実践的に考え、話し合い、中学生に何ができるのかをみんなで考えました。



感想

- 次々に問題が起きて大変だったけど、グループで考えられたので工夫して全て対処できた。
- 対応が間に合わず大変だった。その場その場で良い案を出せるようなひらめきの力も必要だと思った。

◆九月二十九日(水)

講師：江口眼科医院

院長 江口 功一様

演題：「新型コロナウイルス感染症と目の健康」

新型コロナウイルス感染症について正しく知るとともに、感染予防のために自宅で過ごす時間が増えることから懸念されるスマートフォンなどのメディアの使用と眼の健康について説明していただきました。



感想

● ウイルスが眼からも入ってくると聞いて驚きました。マスクだけでなく、手洗いなど日常で大切なことをより丁寧にしようと思った。

● 近視が悪化すると最悪の場合、失明の可能性もあるから眼を大切にしたい。

● 両親がスマホを長時間使っているの、学んだことを伝えたい。



糸半講演会

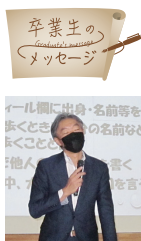
◆十一月一日(月)

講師：北辰法律事務所

弁護士 齋藤 貴介様 (小池中平成元年度卒)

演題：「SNS・インターネットの適切な利用」

インターネットやSNSを有効なツールとして利用できるよう、また、インターネット上で加害者にも被害者にもならないために、私たちの先輩に講師をお願いしました。想像力の欠如による数多くのネット上でのトラブル事例を提示してもらいながら詳しく解説していただきました。



感想

● 弁護士の視点だからこそ、気を付けなければならぬことや大切なことに説得力があった。SNSの便利さに伴う危険性など、法的観点から見るとどうなるかについて考えることができた。

● 先のことを考える想像力やバランス力・価値観が問われると思った。



認知症サポーター養成講座 1年生



燕市認知症地域支援推進員、燕市社会福祉協議会の皆様、講師の小林様よりお越しいただき、認知症サポーター養成講座を実施しました。正しい知識を学ぶとともに、認知症の方への理解と気持ちに寄り添う接し方について学ぶことができました。



地域貢献活動紹介

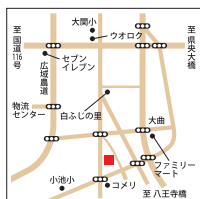


鉢植え・クリスマスリースプレゼント

今年は、講演会や施設訪問、職場体験などでお世話になった皆さんにプレゼントさせていただきました。

地域クリーン作戦

今年も整美委員長からの呼びかけで、多くの生徒が自主的に参加しました。



燕市立小池中学校

〒959-1265
新潟県燕市道金1095-1

ご意見、ご感想等は
jh-koike@g.tsubame-city.ed.jp

今年度は、新たに地域交流と地域発信の視点で地元企業とコラボした品物を制作しています。他にも、三年生は防災学習で感染病の中の対応を学びました。このような活動ができたのも地域の皆様に協力していただいたおかげです。ありがとうございます。

編集後記